

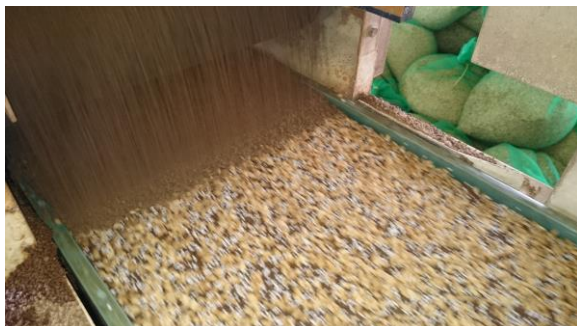
長畝ふるさと通信

【2017年4月号】

■ 播種を詳しく解説しましょう

「苗半作」という言葉があるくらい、育苗が稲作の半分を決める重要な位置を占めています。そこで、あらためて播種から田植え前までの育苗作業を詳しく解説します。

① 苗箱に肥料分の入った床土を約3kg強敷き詰めます。組合では一度に4500箱播種するので、900kg入りの床土を15袋13.5トンも使います。



② 床土にたっぷり水をやり、乾燥した種もみ(少しだけ芽が出た状態)を約140g程度均一に撒き、その上から再度土を被せます。

③ 苗箱をパレットに積み重ね、フォークリフトでさらに2段重ねにして催芽庫に入れます。ここから3日間、30度の蒸気で加温すると、真っ白な芽が一斉に土の中から顔を出します。

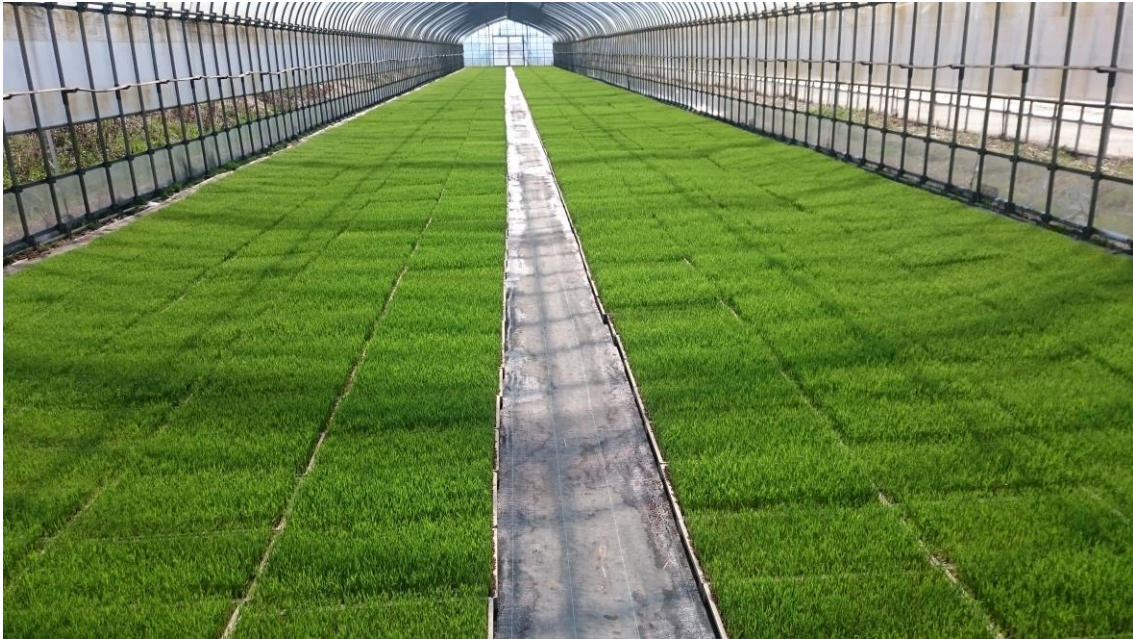


④ 芽が出た苗箱を育苗ハウスへ運び、並べます。この時活躍するのが、自走式苗箱並べ機「ベルノくん」です。4500枚の苗箱をおよそ5時間で並べてくれます。

⑤ 並べ終えた苗箱にまた水をたっぷりやり、被覆シートをかぶせ、さらに3日経つと...



…こうなります。この作業を4月1日から4回繰り返し、合計で約18,000箱の苗を作ります。



■ 1粒の種もみが3000粒のコメになり、茶碗一杯のごはんになります。日本の主食はここから生まれているということです。田植えまでの間、のどが渴けば水をやり、暑ければ風を通し、寒ければ戸を閉めて…毎日毎日、苗の顔を見ながら過ごすのです。

■ 長畝氣比神社祭礼

4月15日、今年も祭りが始まりました。今年から氏子総代となったので、普段は見ることのできないウラまでご紹介します。

早朝4時半、伝統芸能「鬼太鼓」の白鬼と黒鬼のお面を祭壇にお供えし、青年会の若衆が集まり、お神酒を上げます。緊張した空気の中で祭りが始まります。





5時から神社の境内で奉納の舞が始まります。今年初めて鬼を舞う「黒鬼」はド緊張でガチガチ、2年目の「白鬼」は張り切りすぎで空回り・・・まあ、こんなもんです。一通り舞い終わると集落へ出かけ、ふるまい酒を煽りながら門付けして回ります。氏子総代はこの間に、

神主様を招き、様々なお供え物をし、神事の儀式を執り行います。若い頃は酒飲んで騒ぐのが「まつり」だと思っていましたが、こうして氏子総代となって神事に関わると昔から延々と行われてきた豊穰への感謝や祈りが心に染みてきます。「ニッポンの心、ここに有り」。今年もうまいコメがたくさん獲れますぞ。



青年会が門付けを終えて再び宮入りするのは夜の11時頃。一日中舞い続け、呑み続けクタクタになって帰ってきます。しかし、ここから最後の奉納の舞が約2時間。若衆が一つになって二人の鬼を盛り立てます。声はガラガラ、足元はふらふら、酔って臉が落ちそうな奴もいます。でもその先には大きな達成感と感動が！「いや～、今年の祭りもよかった、よかった」・・・毎年誰かが必ずそう言います。後片付けを終えて家に帰ったのは午前2時。22時間よく頑張った。



今年の鬼を舞ったのはこの二人。いい顔してます。

みなさん、来年の4月15日お待ちしております。楽しいですから。